

令和6年度 第2回甲府市立図書館協議会 議事録

日 時：令和6年10月22日（火） 午後2時～

場 所：甲府市立図書館第1会議室

委 員：出席7名 齊藤委員（会長）、伊東委員（副会長）、雨宮委員、篠原委員、白須委員、
畑委員、丸茂委員

事務局：青木図書館長、古屋管理係課長補佐、牧野資料係長

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 第2次甲府市立図書館基本計画原案について

○事務局説明（資料に基づき説明）

○質疑応答

委 員： 26ページ「社会教育活動の充実を図ります」の「多様な学習機会の提供」について、小学校では教室に入れずにいる子どもに、個別の学びの場を提供している。保健室で学んだり、状況によっては学校図書館に行つて本を読んだりということもある。本が好きで黙つて本を読んでいる子もいれば、タブレット端末の電子書籍を見たり折り紙の本を見ながら非常にいい作品を作る子もいる。子どもの多様性に対応して丁寧に指導していくことで、子どもたちが学校に来られるよう、寄り添つて指導をしている。また、そういうところで認めてあげるところで、例えば子供が将来、学ぶとか人と関わるとかそういうところを大事にしていきたいと学校でも思っている。図書館で子どもが興味を持った講座を実施し、そのことを学校と連携をして周知するというところを行つていけたらと思う。

委 員： 第1回の話し合いの内容がきちんと確認されていて、十分な計画が立てられているのではないかと思った。読点の場所を変えると読み手が読みやすいかもしれないと思った。

委 員： 移動図書館なでしこ号ですが、もう少し更新のところを強調して、この5年間の比較的早い段階で持つてくような表記にした方が良いと思う。

社会教育委員の会議の中で、公民館の行事や講座などの参加者が高齢者ばかりで若者がいないという話があった。ウィークデーの日中に行われるのでやむを得ないとは思いますが、若い世代をどう引き込むかという議論が出た。図書館でもSNSでイベント情報などの発信を行うことで若者を取り込むことができるので、ぜひやっていただきたい。

小学生や中学生の作文コンテストの作品を何年も読んでいるが、非常に文章力がなくなつてきていると感じた。多分、本を読んでいないからだと思う。10年前と比べると、あまり文章力がついてないという気がする。そういった子どもたちの親世代が、この図書館で或いは電子図書を見て本を読むという機会を得て、子どもたちに本で面白いんだよ、創造力をたくましくするんだよ、ということを教えてあげる

と良いと思うので、その辺の世代にアピールできるものを考えていただきたい。

議長： 若い人をどう引き込むかということは大事なことだと思う。図書館側でこんなことをしているということはあるか。

事務局： ボランティアの方を中心に、お子様に読み聞かせをしていただき、お母様方にも読み聞かせの大切さを継続してお伝えし、体験していただいたりもしている。また、ちびっこ図書館まつりやクリスマス会では、小学生にも来ていただくようなことをしており、夏休みにはスタンプラリーを行い楽しみながら本に親しんでもらうということもしている。地理的要因などで図書館に低学年の子ども1人では来られないというところがあるが、できるだけ本好きな豊かな子どもに育てていただきたいという思いは常にある。皆様の専門的な立場でのご意見も参考にさせていただきたい。

委員： 図書館協議会の場に専門家である司書の参加が必要だと思う。23ページの「基本方針1 基本サービスの充実を図ります。」の「(4) 専門職としてのスキルアップ」とあるが、図書館の運営方針を司書の方が知るということもスキルアップに有効だと思う。

事務局： 子どもの読書活動推進協議会は図書館からも司書が委員として参加をさせていたでいる。図書館協議会については、職場の中で情報共有を行い司書と協議をする中で、係長以上の担当者が代表して出席しているのでその辺りはご理解をいただければと思う。

委員： 市議会だよりの6月定例会の報告で、議員さんが「移動図書館なでしこ号は地域でも評価されていますが、古い車両であるため、更新計画についてお聞きします。」と質問されている。それに対し「利用者ニーズを把握し、蔵書の充実を図るとともに、一層魅力ある図書館づくりを進めます。なでしこ号につきましては、リニューアルの検討を行ってまいります。」と答えているが、予算などはどのように考えているか。

事務局： 運用状況や利用者のご意見を多角的に見る中で、ステーションの場所もあるので、ただ車だけを新しくすれば良いということではなく、時代に合ったものが必要だと思う。今の車も古いがきちんと安全に運転はできている中で、この計画にもあるようにリニューアルに向けて検討していくと明言している。今年は利用者アンケートも行い、少しずつですが進んでいるという状況です。車1台買うということになると金額も大変大きく、本の積載量がどのぐらいが適当であるかとか運行の安全性など、いろいろクリアするべきところもあるので、多角的に検証しながら検討していく。

議長： なでしこ号は、分館のない甲府市で、その地域に本を提供してくれるととてもありがたい存在だと思う。リニューアルしたりステーションも考えたり、しっかり進めていただきたい。

事務局： なでしこ号の良さを皆さんにより知っていただくため、10月12日に開催された『子ども応援フェスタ』になでしこ号を出動させた。来場者になでしこ号の本の貸出を行ったり、また司書による読み聞かせなど大変好評だった。またそのような機会を活用しながらPRしつつ、進めていきたいと思う。

委員： 地区で今年の正月のお祭りで消防分団の消防車やミニパトカーに来てもらった。地域の中でいろんなところから、地域の資源になるようなものを出してもらって、触れ合ってもらい開催している。現在、消防団の団員が極端に減っている。お祭りには小さい子どもが来るので親も一緒に来る。親は2・30代ぐらいの年齢の人が多いため、そういう人たちにも消防団について理解してもらえるような形でやりたいと思っている。また、お祭りで人が集まったときに、特に子どもたちが集まったときに図書館に参加してもらおうということもできる。PTAの場合、ほとんど携帯でネットワークができています。地域の行事があるとき、PTAの会長さんにメールを送ると、こういう行事がありますよと流してくれる。そういう既存のものを活用するともうちょっと違うと思う。

また、電子書籍が拡大していく中で、5年ぐらい先を見越して今の図書館が何をしていけばいいのか具体的に今から取り組むことを考えていかなければならない。図書館の特色をどうやって出していくのか。地域に根差した活動を充実していくと良いと思う。

委員： 36ページの「おはなし会」の用語解説と7ページの(7)児童サービス「読み聞かせやおはなし会」という文書を直して分かりやすくした方が良い。

また、同じ7ページの「(4)子どもの読書活動の推進」の説明は、第1次の「読書を通じて豊かな心と生きる力を育む」という一文がわかりやすく的を射ているので、入れていただけるようご検討をお願いしたい。

委員： クラウドファンディングでなでしこ号の資金を集めることは可能か。

事務局： 選択肢の1つであるとは思っている。何か補助金的なものが使えればそれも良い。例えば今の規模で新車にすると3千万円近くなる。また、作るとなると1年ではできない。補助金を使うとなっても期間のネックがあったり、いろいろと課題はあるが、そういう中でも検討していかなければならない。クラウドファンディングも大きな1つの方向性としてはあると思っている。

委員： 長い目で見て、動かなくなってしまったときに次の車が来て、間を置かずにまた活用していけるように計画的に考えていただいて、その間にルートの問題なども考えてもらいたい。

委員： 費用対効果ということがあると思うので、現状どれぐらい利用があつてどれぐらい市民が切望しているかということが数となって表れることで、理解が得られて予算化されるのではないかと思う。私たちが子どもの頃のなでしこ号は本当に重要な役割を果たしていたと思うが、時代が移って今の現実のところはどうかということとはきちんと検証していかなければならない。多額であればあるほどそう思う。

委員： 車自体は、多分10年、20年もつと思うが、安全装置の部分に対しては、もう相当遅れている。

議長： なるべく早く新しい車両が来るようにいろんな方の知恵を出し合って、みんなで何とかしたいと思います。図書館側からもよろしく願いいたします。

4 閉会